

松江市立病院における 前立腺生検の臨床的検討

やま ぐち ひろ し はやし たか のり
山 口 広 司 林 隆 則
すみ ふみ のぶ
角 文 宣

キーワード : PSA, 前立腺癌検診, 前立腺生検

要 旨

2003年4月1日から2007年3月31日までの5年間で松江市立病院泌尿器科を受診し、前立腺生検を施行した510例につき臨床的検討を行った。PSA 4.0 ng/ml~10.0 ng/ml のグレイゾーンでの受診率が最も高く、この群の生検陽性率は28.7%あった。このうち T3 stage 以上の進行癌が8.8%あり、PSA の値だけでは進行度の判断は困難であり、注意を要すると考えられた。

はじめに

近年、前立腺癌の腫瘍マーカーとして PSA が一般的に認知され、検診にも組み込まれるようになってきた。これにより PSA の異常にて受診する症例が増加し、前立腺生検の施行数も増加してきた。それとともに早期の前立腺癌の発見も多くなり前立腺癌治療が大きく変化してきた。

今回我々は前立腺癌二次検診としての前立腺生検施行症例の臨床的検討を行った。

対象・方法

2003年4月1日から2008年3月31日までの5年

間に PSA 値異常にて松江市立病院泌尿器科を受診し前立腺生検を行った510例につき検討した。前立腺生検は1泊入院、腰椎麻酔にて超音波ガイド下経会陰的10カ所生検を基本とし、直腸診にて癌を強く疑う部分は別に経直腸的に1~2カ所追加生検した。75歳以上の高齢者で他の合併症があり、直腸診にて明らかに癌が疑われる症例については外来にて経直腸的生検を2~4カ所施行した。年度別症例数、年齢別症例数と生検陽性率、PSA 値別症例数、PSA 値別生検陽性率、直腸診所見と生検陽性率、PSA 値別 T stage につき検討した。

結 果

年度別症例数は2003年が51例、2004年が98例と増加し、2005年の136例が最も多かった。生

Hiroshi YAMAGUCHI et al.

松江市立病院泌尿器科

連絡先 : 〒690-8509 松江市乃白町32-1